

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No.29

発行
日本ボーイスカウト宮城県連盟
発行日
平成24年1月31日

年頭のご挨拶

日本ボーイスカウト宮城県連盟
連盟長 村井嘉浩



昨年3月11日に東日本大震災が発生してから9ヵ月あまりが経過いたしました。

我々宮城県連盟も大きな被害を受けましたが、発災2ヶ月後には通常の活動を再開したり、被災地域の支援活動を行ったりした団もありました。これはまさに、「そなえよつねに」のモットーが具現化された姿であり、ボーイスカウトの存在意義を周囲にアピールできたものと思います。

また、昨年は第22回世界ジャンボリーが北欧のスウェーデンにおいて開催されました。当連盟からも指導者及びスカウト13名が参加しましたが、世界の仲間との交流をとおして広い視野を持つことができました。次回の世界ジャンボリーは2015年に日本(山口県)で開催されます。それまで、自分たちができることを見つめ直し、一步一步着実に活動を積み上げていくことが、世界のスカウト仲間からのたくさん

の支援をいただいたことに対する恩返しになると思います。県内各団、そしてスカウト・指導者一人一人がそれぞれの立場で頑張っていたいただきたいと思います。

また、昨年末には、富士章・菊章を受章したスカウトに褒状を手渡す機会があり、これまでの活動等についてスカウトたちの話を聞くことができました。それぞれの目標に向かって努力してきた様子や熱意が十分に伝わり、頼もしく感じました。

これからの宮城、そして日本の主役となるのは、次代を担う青少年です。キャンプや奉仕活動などの活動を通して、指導者が適切に指導や励ましを行うことで、スカウトたちはさらに活動への熱意を高めていきます。指導者の皆様には、スカウトが意欲的に行動できるよう、より一層の御指導をお願いいたします。

今年は復興への新たな一歩を踏み出す年になります。これまでの経験や知恵を生かし、お互いに頑張ってまいりましょう。

結びに、関係者の皆様方の御健康と御多幸を心からお祈り申し上げ、新春を迎えるに当たってのあいさつといたします。

平成24年1月

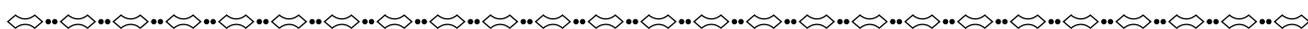
“新しい年を迎えスカウトの皆さんへ”

宮城県連盟 理事長 芳賀 文蔵

平成24年の新しい年を、スカウトの皆さんは元気で迎えられた事を喜んでいます。今年、北海道・東北ブロックキャンポリーが、山形県坊平高原野営場で開かれます。帯広以来7年振りのキャンポリーですので、多くの方が参加するよう希望しています。昨年は、千年に1回とも言われる大震災のため、みんなが大被害を受け活動も思うようにできず残念な年でした。

こういうきびしい時期だからこそ、キャンポリーのテーマを“希望への絆”としてボーイスカウト活動を通じて、何かを考える大会にしたいので、災害の苦しみ悲しみを吹き飛ばす意気込みで、蔵王高原の大自然の中で思う存分活躍して、若い元気なスカウト活動を、社会の多くの方に見ていただき、理解してもらうことも大事なことを考えています。

今年、キャンポリーも目標にして頑張ってください。



新年明けましておめでとうございます。

宮城県連盟 副理事長 東海林 良雲

皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。昨年は、国難ともいえる東日本大震災により県連盟においては勿論県内各団でも人的にも物的にも大きな損害を被りましたが「おきてとさだめ」のもと勇敢に困難に立ち向かい、スカウト本部そして全国スカウト関係者の励ましにこたえて立ちあがりつつあります。

今年の干支は「龍」龍は、想像上の動物ですが、中国ではめでたい動物としています。体が曲がっていることから、それをバネとして勢いを表しています。龍のように勢いよく勇敢に今年スカウト道を歩みたいものです。いよいよあと一年で日本ジャンボリーを迎えます。第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー・第23回世界ジャンボリープレジャンボリーとして開催されるこの大会を盛り上げるためにも一人一人がスカウトの道を大切に、そしてその輪を広げる様祈念申し上げ一言新年のごあいさつといたします。



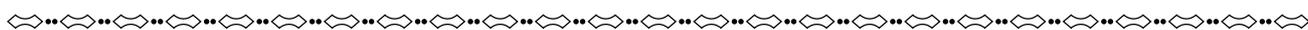
「新年を迎えて」

宮城県連盟 副理事長 高橋 徳夫

「あけましておめでとう」と胸を張って言えない複雑な新年を迎えました。それは、昨年3月11日に発生した東日本大震災と福島原発事故による放射能問題がそうさせているのだと思います。全てにおいて、平穏な状態とは言えないと思います。大震災の被害でもって、スカウト活動が元のように展開できない状況を何とか打破しなければならないと意気込んでみても、あまりにも様々な課題が山積しています。

昨年の年次総会で、県連盟規約の一部を改正し、現況に沿った体制にさせていただきましたが、宮城県連盟の維持・発展のために必要なことを速やかに実施していくことが求められています。

新たな年を迎えた今こそ、スカウト魂を発揮し、手を取り合って、茨の道を突き進むではありませんか。きっと、その先に何かが見えてくると思います。手を拱いては何にもなりません。行動あるべしです。



迎春に期して

宮城県連盟 コミッショナー 千葉 義博

今年ほど、心痛な思いで新年を迎えたことはありませんでした。昨年の大震災において多くの犠牲に遭われました皆様には心より哀悼の意を表し、また痛手を被ったすべての方々にお見舞い申し上げます。私自身も津波に遭遇し、全壊は免れたものの自宅、店舗とも浸水大規模半壊し、現在においても他の被災地とも同様に復興は疎かまだまだ復旧も覚束ない状態です。

しかしすべての時間は進行しております。今私達は、全世界200を超える国と地域で活動しているボーイスカウト運動の使命を認識し発揮すべき時です。この状況下だからこそ、ボーイスカウトの原理であります「神へのつとめ」「他へのつとめ」「自分へのつとめ」を基に、あすの担い手である『青少年の育成』と『社会奉仕』に貢献するスカウト運動を展開していきたいと思っております。一日も早い復興と、躍動ある豊かな社会を祈念しつつ！

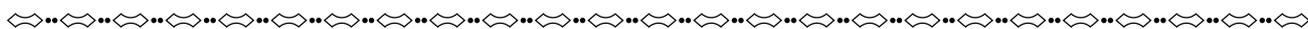
平成23年度宮城県連盟総会開かれる

宮城県連盟組織拡張広報委員会委員長 大久保 晃男

平成23年度の宮城県連盟総会は石巻地区の担当で開催されることになっていたが、3月11日の震災と大津波で被害を受け、また県連盟内も多くの被害を受け5月に開催することが出来なくなりました。今回の総会は役員改選と組織改編の規約改正の承認を頂くことではあったが、5月の県連運営説明会で組織改編の提案がなされ、新しい運営委員会組織で活動が始められました。

石巻地区での総会会場の確保が難しいため、一日での総会を予定し東海林副理事長（雲上寺住職）の協力を得て、10月2日雲上寺サンガホールを会場に平成23年度の宮城県連盟総会を開催することが出来ました。規約改正により組織改編として常設委員会の組織拡張広報委員会、財政委員会、プログラム委員会、指導者養成委員会と特別委員会が承認されました。役員改選では組織改編により高橋理事（総務委員長）、新沼理事（組織拡張委員長）、山田理事（事務局長）が退任し、新たに鈴木幸一氏が加わりその外の学識経験理事は留任となって承認されました。また運営委員会の委員は県連盟役員として新たに加わることで規約改正が行われ承認されました。臨時の理事会が開かれ運営委員会の各委員長・副委員長が決まり、並びに事務局長に鈴木幸一理事、事務局次長に大丸英則氏が決まり、理事の役割は次の様に芳賀理事長より報告されました。

- * 理事長 芳賀 文蔵
- * 副理事長 東海林 良雲（財政委員会委員長）
- * 副理事長 高橋 徳夫
- * 地区代表理事（県北）片寄 稔（石巻）菅野 五郎（東部）松原 健二（仙台）菊地 彬夫（仙南）南館 重義
- * 学識経験理事
（財政委員会副委員長）太田 陽平、
（組織拡張広報委員会委員長）大久保 晃男、
（組織拡張広報委員会副委員長）柿沼 富雄、
（プログラム委員会委員長）菅野 宏彦、
（プログラム委員会副委員長）佐藤 友秀、
（指導者養成委員会委員長）中橋 邦、
（特別委員会委員長）村上 佳司、
（特別委員会副委員長）横澤 繁、
（事務局長）鈴木 幸一



平成23年度精励スカウト（褒状）表彰式・村井連盟長表敬行われる

暮れも押し迫った12月27日に、宮城県庁の村井県知事（連盟長）を平成23年度富士章・菊章修得のスカウトが表敬訪問し精励スカウト（褒状）の表彰式が行われました。

村井県知事（連盟長）には暮れのお忙しい中時間を割いていただき、会議室において芳賀理事長、千葉県コミッショナーを始めとする県連役員と精励スカウトが待つ中、午後1時村井県知事をお迎え致しました。理事長より精励スカウト表敬趣旨のお話を致し、県コミッショナーの進行で第22回世界スカウトジャンボリーに参加したスカウトよりスウェーデン派遣の報告がなされました。表彰に移り連盟長より富士章修得ベンチャースカウト2名（古賀美野里、沼田裕也）が保護者と共に表彰状を受けましたが、沼田裕也君は大津波に家族が流され亡くなられたため保護者に贈られる記念品を霊前に置くと連盟長に伝えました。続いて菊章11名に連盟長より一人一人褒状が渡され、連盟長から激励の言葉を頂き、代表スカウトより謝辞と抱負が述べられ、出席者全員で村井県知事を囲んでの記念撮影が行われました。知事の計ら

いで一人一人知事との記念撮影が行われました。

表彰式が終わり県知事が退室された後、生涯学習課長（小学から中学にかけてスカウト活動に参加していた）との懇談に入りスカウトの活動報告や保護者の話、指導リーダーの話など、質問を交えながらの有意義な時間を過ごすことができ、郷古隊長（多賀城2団）の御礼の言葉をもって2時に全てのプログラムを終了致しました。

千葉県コミッショナーより今回から新たに精励スカウトに授与する記章が渡されました。この記章はスカウト年代で制服に着用することができるもので、すでに受賞したスカウトには順次渡されることとなります。



団存亡の危機に遭遇して

石巻第2団 団委員長 菊池 康博

大震災で全てのインフラ・通信手段を断たれて10日…ようやく電気・水道も復活して我に返った3月21日、買だしや給水車へ通う仕事も無くなったので、被災地域へ目を向けて見る気になった。

幸いわが家は「北上運河」の堤防で防御され、津浪の直撃は受けなかったが、隣町の「定川」の堤防が決壊し、その水が流れ込んで来て床下浸水、あと10cmで床上に達する“ギリギリ”のところであった。排水ポンプも停止し数日は水浸し…心も水浸しであったが、自身の環境が回復して来て、ようやくボーイスカウトの団委員長だったと思ひ至り、各隊長へ取り敢えず6月までの活動停止を指示した。

4月に入り、地区より被害状況調査の依頼があったが、目的がはっきりしないので「単なる調査であれば、忙しいのでお断りします」と返答した。

4月中旬これからの活動の資料とする為、各隊長に指示してスカウト個々の被害状況の聞き取り調査を開始した。

特に、当団は津浪被害が甚大であった東松島市大曲地区の隊員が多いので、まず人的被害そして住宅被害（スカウト活動が継続できる状態か？）を重点に調査した。

一今後の参考まで記しておくが、通常隊員の連絡名簿には「固定電話」の番号しか記していないが、BS隊長は緊急連絡用に家族の携帯電話番号を持っていたので、それをもとに、全員の消息を確認出来た。

3月下旬、ほぼ壊滅した釜地区にあった団倉庫に向かって見たが、ヘドロとガレキで近づくことが出来ず、4月になって自衛隊さんが道路を作ってくれたので、辛うじて原型を留めていた大家さんの大邸宅を目標

に、それとおぼしき場所を見て見たが、建物は勿論土台さえガレキに埋もれて見えなかった。

この時点で、隊員の被害状況も勘案して、被害スカウトから止めるといふ人が数人出たら「団を解散しよう」と思った。

人的被害は副長の家族（母・祖母）2名だけで、加盟員は無事であった。

しかし、建物被害や制服用品を流失した者は半数に達し、全員の意志確認出来るまで活動は無理と判断して、更に8月までの活動休止を指示した。

この間、6月にはBS隊長が仕事で中国へ転出し、急遽CS隊長を上進させたので、CS隊は当面放っておくことにした。

ようやく落ち着いて来た6月中旬、VS&BS隊のスカウトを集めさせ、隊員の意向調査をさせ、それを踏まえて7月初旬「保護者集会」を開催した。

その結果、止めるといふ者は一人も出ず、「当面野営訓練は出来ないが、地面を歩き回る活動でがまんしよう」ということで、9月から再スタートすることにした。

欠員になってしまったCS隊長も保護者に“ゲタ”を預け、誰か引き受けなければ活動を休止する覚悟で後任を推薦して貰い、8月に入ってCSの集会も開催出来、9月からの活動再開へ向けて体勢を確立した。

例年7月に行っていた募集活動も出来なかったもので、環境は厳しいが9月から開始することとし、9月中旬「上進式」だけ行ってどうにか動きだしたが、新規隊員が居ないので頭でっかちの、変な形の団になっているのが現状である。

災害支援の動き

石巻第6団VS隊長 大丸 英則

2011年3月11日に発生した東日本大震災の発災に伴って石巻地域で展開された災害ボランティアとボーイスカウトとの関わりについてお話しします。

発災後、まず優先されることは人命の確保です。行方不明者捜索や負傷者の救助などは自衛隊や警察・消防のお仕事になります。ボランティアとしてできることは、物資の配送や炊き出しなど助かっている人たちの食の確保に関する支援です。石巻では避難所が閉鎖することができた10月11日までの間に合計で80万食以上の炊き出しが行われました。

次に、必要になった活動は生活環境を整えていく活動です。石巻で実際に行われたボランティア活動は家屋内のガレキ撤去と清掃です。ボーイスカウト日本連盟は、石巻市災害ボランティアセンターが開設された石巻専修大学に拠点を作り、スカウトボランティアを募集して、活動を継続して実施しました。この活動のおかげで、避難所生活から自宅へ帰ることができた被災者の方々はたくさんいます。

石巻市では、被害が大きかったために学校や公共施設のほとんどが避難所になっていました。生活が落ち

着きを取り戻してきた頃には、避難所での集団生活で疲れた被災者の方々や、遊び場がなくなってしまった子供たちのケアをするボランティア活動がたくさん行われました。直接避難所を回ったり、子供たちの遊び相手をしたりした活動だけではなく、直接現地に来ることができなくても全国から届けてくれたメッセージや気持ちが被災者の心の支えになりました。

実際に現地でボランティア活動に参加できるのは、18歳以上に限定されてしまいます。スカウトの年代の皆は、直接ボランティア活動に参加することはできなかったのが現実ですが、全国のスカウトの皆が各地で実施してくれた募金が、長期的になった活動を支えてくれました。災害ボランティア活動には、様々な形があり、活動する人によって出来ることがあります。重要なのは、何が必要とされているのかを知ることと、自分たちに何が出来るのかを考え行動することです。被災地である宮城県に届いたたくさんの想いに感謝すると共に、宮城県のスカウトとして何が出来るのかということを考えていくのも、今後必要なことだと思います。

地区だより

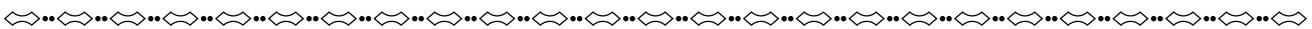
石巻地区 ともに前へ



石巻地区でも津波により関係者が犠牲となり、また全資材が流失し被害にあった団もありその活動が危ぶまれたが夏休みには被害の僅少だった団が補完主導して地区合同のBSキャンプを実施することができた。

また、地域住民の皆さんと交流を図りながら水仙植栽プロジェクトを実施したり、地区クリスマス会を通じて地域にボーイスカウト運動を紹介する予定などスカウト活動の再生に努めている。

これは国内外のスカウトの支援声援と地区内外の指導者の熱意によるものであり感謝申し上げたい。



仙台青葉区民まつり

仙台地区総務委員会

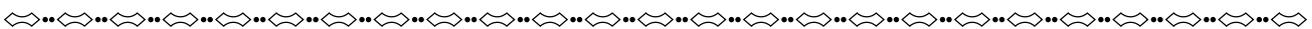
東日本大震災から8ヶ月が過ぎた11月3日、市民広場と勾当台公園で青葉区民まつりが開かれ、地区として3回目の参加となった。

今回も『ぼうけんひろば』をテーマに、モンキーブリッジ、関所破り、ロープ渡り、火おこし、と4カ所に設置。例年大人気のモンキーブリッジは単管でなく、ボーイスカウトらしく丸太で製作。子供達がドキドキしながら渡り切った時の親子の笑顔、安全確保の指導者達も大変「首が痛くなったよ」との声。

また、火おこしでは、何回も両腕を上下に動かし、疲れて、お父さんと一緒に手を重ねて頑張る子、点火した時のびっくりした顔の表情は今でも頭の中に焼き付いている。



来年も多くの子供達に楽しんでもらおう。



みんなでスイセンの花を見よう (スイセンプロジェクト)

仙台第12団 ボーイ隊長 伊藤 清美

11月13日(日)10時から、仮設住宅のある仙台市宮城野区岡田西町において、「スイセンプロジェクト」のスイセンを仮設住宅にお住まいの被災者の方々と植え付けを行いました。

農家の方が多かったので、スカウトたちに植え方の手ほどきをいただき、終始なごやかに楽しい時間を過ごしました。

「仮設住宅を退去するときに、スイセンの球根を掘り起こして自宅でたくさんふやして育てたい。」とみなさんからお話をいただきました。

今回、仙台第12団のスカウトたちが、参加させていただけたことに感謝いたします。

仮設住宅にスイセンが咲いたら、またみんなで会いたいと思います。



団運営研修所開設

宮城県連盟指導者養成委員会委員長 中橋 邦

去る11月3日(木)～5日(土)にかけて、蔵王自然の家(蔵王少年自然の家が名称変更)において、団運営研修所山形宮城合同第1期が開設されました。震災の影響で開設が危ぶまれましたが、開設時期をずらして開設することができました。

参加者は山形から2名と宮城から4名の計6名。所員は所長(中橋)のほか、齋藤勤LT(山形)、井上章LT(山形)、吉田司LT(秋田)、鈴木美恵子ALT(宮城)、中野まりALT(愛媛)、佐藤浩伸県トレーニングチーム員(宮城)と、開設担当の田端指導者養成委員(宮城)という構成で、指導者養成担当の松岡県連盟副コミッショナーも運営スタッフとしてご奉仕頂きました。



齋藤LTと吉田LTはそれぞれ山形と秋田の県連盟コミッショナーであり、豊富な経験を基にした実践的な指導をして頂きました。佐藤浩伸チーム員は本年夏の副リーダーートレーナーコースに参加しており、担当のセッションではコースで学習してきたことを遺憾なく発揮してくれました。来年4月にはALTに委嘱される予定で、今後とも宮城のトレーニングで中心的な役割を果たしてくれるであろうことを期待しております。

中野まりALTは本年(2011年)1月の世界会議における選挙でトップ当選を果たした現役の世界スカウト委員でもあります。今回縁あってご奉仕頂きましたが、特別セッションで世界スカウト機構やアジア・太平洋地域の動きなどの最新情報を講演頂くなど、参加者のみならず所員にとっても貴重な機会となりました。



参加者の皆さんは終始熱心に研修に取り組み、ご自分の団について多くのことを見つめ直す機会になったと思います。それぞれの団には様々な事情がありますが、スカウト達のためにより良い団に向けて活動を展開してくれるものと確信しております。



「ベンチャー部門進歩制度の一部改定について」指導者説明会を開催

宮城県連盟プログラム委員会委員長 菅野 宏彦

日本連盟の「ベンチャー部門進歩制度の一部改定」に伴い、県内の指導者の方々への説明会を11月13日(日)仙台市太白区市民センターで開催し38名が出席されました。大きな改定のポイントは「ボーイ部門とベンチャー部門の進歩課程における一貫性、継続性」が考慮され、①ボーイ部門で取得した最終級によってベンチャー章への取り組みが違ってくこと。②1級スカウトは9月にベンチャー隊に上進後も、中学を卒業する3月31日まで「菊章」に挑戦できること。③新たに「隼章」が新設され、「富士章」が通過点からスカウトの到達点へ変更になったことなどです。

細目の内容についてはいろいろと改定されておりますので、各地区のコミッショナー等へご確認下さい。また進歩制度はスカウト運動の大きな柱でもあり、この運動が目指す「よき社会

人として幸福な人生をおくること」への大切な取り組みです。是非この進歩制度を十分に理解して頂き、多くのベンチャースカウトが、隼章、富士章を取得できるようご指導のほどよろしくお願い致します。



ボーイスカウトのちかい

ち かい

私は名誉にかけて次の三条の実行をちかいます

- 一、 神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります
- 一、 いつも他の人々を助けます
- 一、 からだを強くし心をすこやかに徳を養います

ボーイスカウトの創始者であるベーデン・パウエル卿は、1907年にイギリスの南部プール湾に浮かぶブラウンシーという小さな島で、20人の少年達と実験キャンプを行いました。ボーイスカウト運動はこの小さな島ブラウンシー島から始まり、世界に広まりました。ベーデン・パウエル卿はクリスチヤンの家庭に育ち、多くの教育を受けましたが、ベーデン・パウエル卿がスカウト運動を造り、ボーイスカウト運動が世界に広まったのは、宗教にこだわらず誰もが入れる活動にしたからです。

スカウト運動に入るには「ちかい」をたてて入りますが、この「ちかい」はスカウティングの原理「神への務め」「他人への務め」「自分への務め」からなっており、世界のスカウトはそれぞれの国の表現が違っていても「三つの務め」から「ちかい」が組み立てられています。2007年のボーイスカウト創始100年を記念して第22回世界スカウトジャンボリーが発祥の地イギリスで開かれた時、世界各国の参加スカウトがアリーナに早朝集まり、全スカウトが三本の指を立ててスカウトサインを行い、次の100年に向かってそれぞれの国々の言葉で一斉に「ちかい」を立てました。

ボーイスカウト日本連盟の「ちかい」は、スカウティングの原理の三つの務めから成り立っています。ボーイスカウト運動の柱ともなる「ちかい」は、人から言われ強制されて唱えるものではなく、「私は名誉にかけて」自ら自分自身に対して誓いを唱えるものです。ボーイスカウト活動は「行うことによって学ぶ」もので「三条の実行」を行うことを自分自身に誓うために「ちかい」を立てます。「ちかい」の「神（仏）と国とに誠を尽くし」は、日本は神の国で仏の国でもあり、多種多様な宗教の国でもあります。スカウト一人一人が明確なる信仰心を持つことをボーイスカウトは奨励しています。自分の生まれた国や県、地域や郷土を愛する心を持ち、誠実さを持ち、信仰心を持つことにより「神への務め」が生まれます。「おきてを守ります」は、スカウトはいつも行動の物差しとなる8つの「おきて」を考えながら日常の生活を営み、「人格」が形成され、良き社会人になるように努めます。「他の人々を助けます」は、「奉仕の心」で常に人に役立つ事を行うことにより「他人への務め」が果たせます。スカウト活動の中では「奉仕」はスカウト教育の一つであり、社会に役立つ大人を作り上げる基礎となります。「身体を強くし」は、人の役に立つためには身体が健康でなければ行えません。「心をすこやかに」心身共に「健康」を維持することが大切で、心は常に純真で濁りのない様に努力することがスカウトに課せられています。「徳を養います」は、スカウトは奉仕を行うために多くのスカウト「技能」を身に付け、「他人への務め」を行うことにより報いを受けず、「奉仕の心」を養い「自分への務め」を果たし、良き社会人になるようにボーイスカウトとして自ら誓いを立てて実践します。

「ちかい」は、ボーイスカウトからベンチャースカウト、ローバースカウトのスカウトと指導者が入る時に「ちかい」を立てます。ボーイスカウト以下のカブスカウトやビーバースカウトの幼年期のスカウトは、「ちかい」をその年齢にあった簡単に要約した言葉で表わした「やくそく」を自ら唱えます。

ビーバースカウトのやくそく

- ぼく（わたくし）はみんなとなかよくします
ビーバースカウト隊のきまりをまもります

カブスカウトのやくそく

- ぼく（わたくし）はまじめにしっかりやります
カブ隊のさだめをまもります

大会情報

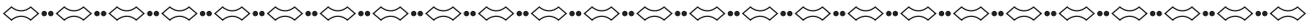
第13回韓国ジャンボリー派遣

韓国スカウト連盟創立90周年を記念して開催される大会です。
期間：平成24年8月2日（木）～8月9日（木）8日間
場所：大韓民国江原道（カンウォン）固城群（コソン）雪岳山（ソラクサン）
派遣人員：スカウト180人、指導者・IST20人 計200人
参加費：120,000円くらい
締め切り：県連へ2月29日まで。事前に県連へ問い合わせ下さい。



第4回北海道・東北キャンボリー（4HTC）

期間：平成24年7月30日（月）～8月2日（木）（4日間）
場所：山形県上山市「蔵王坊高原国設野営場」
対象：ボーイスカウト・ベンチャースカウト・ローバースカウト
参加費：23,000円～25,000円（大会参加費15,000円、バス代・記念品代・雑費を含む）
締め切り：1月中旬（山形県連盟へ1月末まで予納金5,000円/人）
※1月10日の実行委員会で正式な参加費、申込期日、方法が決まります。
※正式な内容は、実行委員会からの案内をご覧ください。



県連事務局長に就任して

宮城県連盟事務局長 鈴木 幸一

10月の県連総会において事務局長の大役をお受けすることになりました塩釜第1団所属の鈴木です。事務局長と言う仕事に関してはメッセンジャー的な仕事をイメージしていましたが、先日の全国事務局長会議において諸先輩方々にご教授を頂きまして、考え方を全く改めました。事務局長の職責は理事長、各理事、そして県コミと共に県連盟の運営に深く携わることであります。

ボーイスカウト組織の経営目的は二つ。

一、社会に役立つ青少年を育成する。二、県連盟の経営数値目標を達成すること。県連役員は経営資源（人・物・金）を有効に使うことによって成果を上げていくことにあります。このことは団の育成会員、団委員、隊指導者の職責と同様であると考えます。

事務局長として県連盟の各ポジションと連携を図り、スカウト達がより一層躍進できるような県連盟にしていきたいと思っております。どうぞ今後のご指導、ご教授をよろしくお願い致します。



指導者の皆さんに…。 友情バッジを活用しよう

組織拡張広報委員会

指導者の皆さん『友情バッジ』を知っていますか。友情バッジは組織拡充顕彰バッジとして平成11年11月に日本連盟に新しく制定され、21世紀を担う人材を育成する使命を持つボーイスカウト運動に、一人でも多くの青少年を迎え入れようという視点から生まれました。『友情バッジ』は多くの人々をスカウト活動に参加させる活動を奨励するためのもので、1人を仲間に入隊させたスカウトには『銅色友情バッジ』、3人以上を入隊させたスカウトには『銀色友情バッジ』、5人以上を入隊させたスカウトには『金色友情バッジ』を、ご褒美として団より授与致します。授与された『友情バッジ』は制服に着用する場合は、年功章の内側に着用し、スカウトである間は永続的に着用することが出来ます。指導者の皆さん『友情バッジ』を活用してスカウト仲間を増やしましょう。



友情バッジ

編集後記

10月の県連総会後また組織改革により組織拡張広報委員会初めての発行となりました。

新しい年を迎え昨年3月1日に起こった震災大津波の映像が多く報道されました。忘れてはいけない大災害、多くの幸せを奪った大震災、今年は生きていることへの感謝と、人の手助けができる喜びをスカウトと共に幸せを造ろう

（大久保 記）

- 発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
 - 編集 宮城県連盟組織拡張広報委員会
委員長 大久保 晃男
副委員長 柿沼 富雄
委員 幸田 行広 大沼 茂雄
松本 康男 蟻坂 隆 小野寺 純
- 〒985-0841
宮城県多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号
宮城県多賀城分庁舎内
TEL 022-355-6265/FAX 022-355-6267
- 印刷 株式会社 小野寺印刷所